

いのち 生命のにぎわいとつながり

No.38

令和8年1月

最近、ニュース等で取り上げられることも多くなつた外来水生植物・ナガエツルノゲイトウは、千葉県でもその分布を拡大し続けています。今号では、その実状に迫ります。

ナガエツルノゲイトウの生態と対策



ナガエツルノゲイトウの群落と花（丸枠内） 撮影地：印旛沼（令和7年8月）

最近、身近な水辺に見慣れない植物が繁っていませんか？いま、千葉県の広い範囲で外来の水生植物が、拡大しつつあります。それら植物のうち、特に深刻な影響を及ぼしているとされるナガエツルノゲイトウは、どのような植物で、どのような問題が起きているのでしょうか。

CONTENTS

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 ナガエツルノゲイトウの生態と対策 | 1 |
| 2 生物多様性に関する市町村研修会を開催しました | 3 |
| 3 文化の日千葉県功労者表彰～公益社団法人 観音崎自然博物館～ | 4 |
| 4 千葉県の希少種（アブラハヤ） | 4 |

◎ナガツルノゲイトウとは

ナガツルノゲイトウ（以下、ナガエ）はヒユ科の多年草で、南アメリカ大陸のパラナ川が原産です。長い茎をはうように伸ばし、4~11月に2cmほどの白い花をつけます。原産地では種子をつけますが、日本に侵入したものはつけません。しかし、ちぎれた茎・葉・根の断片から再生する性質があり、水上から陸地まで繁茂できることから、侵略性が非常に高いです。

このような性質から日本だけでなく、中国、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカなどの30ヶ国以上に侵入しています。北アメリカ大陸への侵入ルートは船への付着やバラスト水などが一因とされていますが、日本へは観賞用に持ち込まれた個体が野外に出てしまったと考えられています。

2005年には外来生物法の施行と同時に特定外来生物に指定され、生きたままの運搬等が規制されています。

◎ナガツルノゲイトウの生育する場所

① 河川・湖沼

茎が中空のため水に浮き、大きな浮島を形成します。ちぎれやすく、大雨の増水時や、水辺の草刈りなどでも、容易に断片ができます。水流に乗った断片は、護岸用の蛇籠や杭に引っかかるなどして足がかりができると大規模に繁茂します。

② 農地・農業用水路

断片が農業用水路に流入することで、田畠にも侵入します。撒かれた稻わらの下でナガエが越冬し、春に土壤にすき込まれて拡大することもあります。農薬で他の植物が除去された空白地帯に茂ることもあります。ナガエが付着した農業機械を他の田畠で使うことで、広がることもあります。

③ その他の様々な場所

都市部にある公園の池や陸地、道路の工事現場、土のう袋、街路樹の下の植え込み、市民農園などでも、ナガエの繁茂が確認されています。これらは、断片が混入した土の運搬や、水流による断片の拡散が原因と推測されています。また、鳥類の体への付着などにより、ナガエが分散した事例も確認されています。

さらに、ナガエは耐塩性があり、砂浜でも繁茂する

ほか、海上でも一定期間を生き残ることから、海流による分散の可能性も指摘されています。



花壇に侵入したナガツルノゲイトウ（青い矢印）

◎ナガツルノゲイトウのもたらす影響・被害

① 社会生活への影響・被害

河川・湖沼では、繁茂したナガエは航行の支障となるほか、排水・取水の障害の原因になり、治水に大きく影響します。農地では、ナガエに養分が奪われることでの稲の収穫量の減少、コンバインなどの農業機械にナガエがからまり故障する被害等が出てきます。

② 生態系への影響

ナガエが繁茂することで、他の植物が育つ場所が奪われ、そこに住む動物達がいなくなります。ナガエの浮島が水中の光を遮ることで、水中の照度が低下し、植物プランクトンや水中の植物が育たなくなります。また、ナガエは動物プランクトンの成長をさまたげる物質を出すため、これらが減少して水生昆虫類などの食物が少なくなってしまいます。このように、生態系の全体に様々な影響が広がります。

◎どうやって対策するのか

ナガエは、初期の小さなものであれば、手作業で根ごと掘り出し、断片を残さない完全な除去が可能です。しかし、群落が大きい、根が深い等の状況になると完全な除去が難しくなります。状況次第では、水草刈取船や重機を使用する大がかりな作業となります。このように、早期発見し防除できれば根絶できますが、時間の経過とともに群落が拡大すると除去が困難になり、コストも人手もかかることになります。

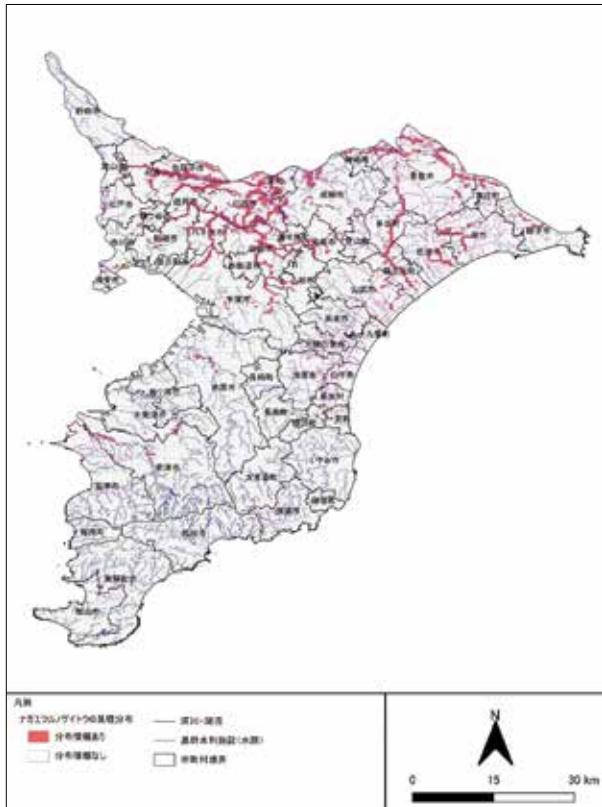


水草刈取船

◎生物多様性センターの取り組み

センターでは、令和5～6年度に県内を網羅した分布調査を実施しました。その結果、令和6年度時点でのナガエの主な分布域は県北部や君津地域と判明しました。また、今後の拡大の可能性が高い地域（小規模群落が河川の上流や水路で確認された場所）は、山武・長生地域の平野部の水路、千葉・君津地域の東京湾に流入する河川と予測されました。さらに情報を収集するため、令和7年にはアプリを使った県民参加型の分布調査を実施しました（86号参照）。

なお、現在もセンターHPで発見情報を募集しています。特に、これまで見つかっていない安房・夷隅地域での情報は、早期対策に重要です。



分布図の例（令和6年度までの累積分布図）

この他、センターではナガエの特徴や駆除方法等を掲載したリーフレット（82号参照）や、観察用のアクリル標本を作成して普及活動をしています。分布調査の結果やリーフレットはセンターHP（末尾のQRコード参照）で公開しています。

◎私達にできること

きれいな花があると植えたくなる、持ち運んで誰かに見せたくなるという私達の行動は、人間らしさの表れといえます。しかし、遠くの場所から持ってきた植物を野外に出してしまうと、想像以上に拡大し、様々な被害が起こることがあります。私達にできるのは、外来種を自然環境へ放出しないこと、見知らぬ外来の生物を早めに発見して対応することです。第二のナガエを出さないよう、被害を広げないよう、多くの方の理解と協力が必要です。

生物多様性センターHP：ナガエツルノゲイト
ウ等特定外来生物の外来水生植物について →



（下稻葉 さやか 千葉県生物多様性センター）

生物多様性に関する 市町村職員研修会を開催しました 令和7年10月29日（水）

生物多様性に関する市町村職員研修会を開催し、生物多様性を担当する市町村職員35名にご参加いただきました。



本研修は、まちづくりの主体である市町村職員の方々に、生物多様性への関わりについて理解を深めてもらうことを目的に毎年開催しています。

今年度は、「生物多様性市町村戦略の策定について」、「県内の特定外来生物（動物）について」、「県内の特定外来生物（植物）について」、の内容で研修を行いました。

「生物多様性市町村戦略の策定について」は、国内外の動向、背景や目的、戦略を作成するメリット、環境省による策定のための支援等を紹介しました。「県内の特定外来生物について」は、昨年度の研修会のアンケートにて外来種に関連した説明への要望が最も多かったため設定した演題です。県内の特定外来生物の現状や対処方法、法的な取り扱いについて、動物と植物に分けて解説しました。会場ではクビアカツヤカミキリやオオキンケイギク等を封入したアクリル標本を展示し、実物を観察していただくことで理解を深めました。

(桐澤 凜 千葉県生物多様性センター)

文化の日千葉県功労者表彰 ～公益社団法人 観音崎自然博物館～

千葉県では昭和23年から11月3日の文化の日に、本県の発展に寄与された方や団体を表彰しています。

令和7年度は、環境功労の分野で公益社団法人観音崎自然博物館が表彰されました。

観音崎自然博物館は国内希少野生動植物種及び天然記念物に指定されているミヤコタナゴについて、平成2年から域外保全、生息状況調査等を実施しています。また、千葉県ミヤコタナゴ保全協議会の委員として、ミヤコタナゴの保全に専門的な助言等を行うとともに、県内の複数市町で川の生き物観察会の講師を務め、希少種保全の重要性に関する普及啓発に協力し、県内の希少野生動植物保全に多大な貢献をしていることが功績として評価されました。

表彰をご紹介するとともに、あわせて、お祝い申し上げます。

(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)



千葉県の希少種

アブラハヤ

(千葉県レッドリスト・最重要保護生物A)



アブラハヤは全長は8~15cm程のコイ科の魚類です。福井県および岡山県旭川以東の本州に分布し、種としては朝鮮半島～ロシア東部にも分布しています。北海道では国内外来種として定着しています。主に河川の上・中流域、農業水路、山地の湖沼、湧水のある細流などに生息しています。食性は雑食性で淵や平瀬の底層にいて、底生動物や付着藻類等を食べます。産卵期は春から初夏で、淵や平瀬の砂泥底や砂礫底で集団で産卵します。メスは産卵時に砂礫底にもぐり込むため吻（口の先から目の前縁まで）が伸びます。名前に「アブラ」とついていますが、体表が油を塗ったようにぬるぬるしていることが由来となっています。一見、ウグイと似ていますが、アブラハヤは臀鰭起部が背鰭基底後端と同位置であるため、鰭の位置で見分けることができます。

県内でアブラハヤを見たことがある人はどのくらいいるでしょうか。本種は他の地域では比較的個体数が多い場所も存在し、ごく普通に見られる場合も多いですが、県内では生息域・生息数が減少しています。

アブラハヤが県内で少ない理由として、標高の高い山地が少ない等の房総半島の地理的特徴が要因だと考えられますが、明確な理由は不明です。県内では養老川、小櫃川、夷隅川、白狐川などで生息が記録されており、主に房総丘陵の河川中・上流域に生息していると考えられています。しかし、採捕を伴った記録は非常に少ないです。

そのため、アブラハヤを県内でみつけたら、その発見情報を是非「にぎわい調査団」にお寄せください。

(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター №88 令和8年1月15日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <https://www.bdcchiba.jp>

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。